

兵庫県

ひょうごフィールド
パビリオンを核とした
地域価値創造と
交流人口創出



兵庫県

HYOGO PREFECTURE

人口 5,465,002人 面積 8,401.0 km²

都市の特長

北は日本海に面し、南は瀬戸内海から淡路島を介して太平洋へと続く兵庫県は、大都市から農山漁村、離島まで、様々な地域で構成されており、その多様な気候と風土から、「日本の縮図」といわれている。

ひょうごフィールド パビリオン

2025年に開催される大阪・関西万博を契機にして、県全体をパビリオンに見立て、地域の「活動の現場そのもの(フィールド)」を地域の人々が主体となって発信し、多くの人を誘い、見て、学び、体験してもらう施策。国内外から誘客を図り、地域に人の動きや流れを生み出し、持続可能な地域をつくることを目指す。

01 プログラムの発掘・認定

県万博推進課が県内各所で地域説明会を開催。地域の人々と意見交換するなどプログラムの発掘を実施。広くプログラムの募集を図り、認定審査会を経てプログラムを認定。

02 プログラムの磨き上げ

認定したプログラムに対しては、県が伴走型で支援。誘客に向けて魅力的なプログラムになるよう磨き上げを行うなど旅行商品化を支援。

03 国内外へのプロモーション

知事トップセールスや旅行博へ出展を行うなど国内外でプロモーションを実施。県内各地への誘客を図り、万博後もレガシーとして継続する仕組みづくりを行い、持続可能な地域をつくっていく。

Program プログラム紹介

発酵LabCoo (たつの市)

うすくち醤油発祥の地、兵庫県たつの市。発酵LabCooは、そこで「地産地酵」の取組をしている。「地産地酵」とは、地域の人々が地域の食材を使って地域の味を醸す活動である。



食材を混ぜて自分だけの醤油作り

「ひょうごフィールドパビリオン」のプログラムでは、醤油蔵・糰店の見学ツアーや、「マイ醤油づくり」を行っている。誘客による交流人口増加だけでなく、地域文化の保護・育成や地場産業の発展・継承に繋げることができる取組である。

ある街の一角に所在
四百年続く醤油蔵が



他にはこんなプログラムも!

- 新発見! デザイナー tamaki niime による播州織のものづくり体験
- 「日本六古窯」丹波焼の里を訪ねる
- 酒米の王者山田錦を人が紡ぐ、日本酒Breweryに触れる旅

各取組の
詳細はこちら

ひょうご
フィールドパビリオン



兵庫県の
SDGsの取組



インタビュー

Interview

01 地域における好循環の創出



(左) 兵庫県 企画部 SDGs推進課
副部長兼SDGs推進班長
近澤 高志 さん

(右) 兵庫県 企画部 万博推進課
フィールドパビリオン班 職員
吉岡 優 さん

ひょうごフィールドパビリオンは、地域の人々の取組を発信したいという挑戦や熱意を応援する取組です。この取組に共鳴いただき、多くのご応募をいただいております。プログラムの磨き上げやプロモーションを通じて、万博が終わった後も、継続的に自立自走できるような取組に繋げていき、万博のレガシーとして県の発展を支えるようなものになるように取り組んでいきます。

Column

156件のプログラム
(2023年8月)のうち、
地域の核となると期待
されるプログラムをプレ
ミア・プログラムに選定
している。



02 「ひょうごフィールドパビリオン」への期待

醤油は加える食材で
味が変わります



発酵 LabCoo
代表 松下 裕昭さん

大手醤油メーカーで勤務していた時に、醤油の出荷量低下や小さな蔵が次々と潰れていく現状を見て、日本の発酵文化衰退を危惧していました。日本各地を旅し、日本にはその地で長く育まれた発酵文化があることを知り、地産地酵の活動を広めようと、マイしょうゆ作りをスタートし、ひょうごフィールドパビリオンの認定を受けました。地場の醸造文化を地域内外の多世代に広く発信、体験してもらうことで、地域文化の保護と育成、地域の魅力発信、地域の活性化、地場産業の継承と発展に繋がりたいです。

今後の展望

2023年8月現在156プログラムを認定(プログラムは随時募集中)。2025年の大阪・関西万博に向けて、地場産業のオープンファクトリーや神戸ビーフのルーツとなる但馬牛、兵庫県が醸造量日本一の日本酒などの魅力的なプログラムを磨き上げ、ネットワーク化していくとともに、プロモーションで周知を図っていく。



- 1 神戸の中街街「南京町」
- 2 風情ある城崎温泉
- 3 国内最大級の草食恐竜「丹波竜」
- 4 世界最大級の長さを誇る明石海峡大橋
- 5 淡路島の名産 玉ねぎ
- 6 神戸の1,000万ドルの夜景